

## 足もとの自然から始めよう！ ～学校ビオトープ活動～

長井裕司（ビオトープチーム）

現在、ビオトープチームは大阪府下の4つの小学校で、学校ビオトープを活用した活動をおこなっています。その活動内容を紹介します。

活動は7年目に入りました。限られた時間、回数の中でもっとも子どもたちに伝えるべきことは何かと試行錯誤してきた結果、優先順位を付けるなら、「子どもたちが生きものを好きになる事」ではないかと考えています。子どもたちが植物や動物など好きな生きものを具体的にイメージできなければ、知識として環境保護などを理解してもその場限りの感情で終わってしまうのでは。具体的にあの生きものたちが死んでしまうと想像できなければ、実際に行動に移すことはできないのではと感じています。対象年齢は今までの経験から、無条件に生きものに興味を持てる上限は10歳位だと考えます。よって、3・4年生を中心に生きものに触れる活動を実施しています。

「ビオトープ」とは「野生生物の生息空間」という意味のドイツ語で、自然の保全などを行う時の具体的な場所を示す「キーワード」と言えます。池だけを指す言葉ではありません。4つの小学校全てにビオトープ池がありますが、それだけに拘らず学校内外も含めビオトープと見なし、生きもの世界と触れ合うことを目指しています。子どもたちが1年を通して最も長く関わる自然は学校です。遠くの大自然ではなく身近な「足もとの自然」を通して、共感をもって生きもの世界とむすびつき、地域・自然を愛することを学んでほしいと願っています。実施回数は、年2～4回となっており、1年を通して原則屋外で実施。雨天時は室内でネイチャーゲームやプロジェクト・ワイルド等の環境教育プログラムを活用し、自然に興味を持つよう努めています。

春の活動は、メダカ取りやプールのヤゴ救出などが中心です。生きものを捕まえることは狩猟本能を刺激し、捕まえた生きものを飼うことで一層興味がわいてきます。最初はヤゴに難色を示していた女の子たちが、腰まで水に浸かって救出し、かわいいという姿はほほえましいものです。

夏の活動は、ビオトープ池の生きもの調査観察。校庭の自然探検などです。池の中では地上からでは窺い知れない生きものたちのドラマが展開しています。実際に捕まえて観察します。また、池以外でも校庭内にはいろんな生きものが暮らしています。

秋の活動は、かいぼりです。要は池の掃除です。ビオトープだから自然に任せるのが良いという人もいますが、子どもたちのため生物の多様性を維持するために、適度な攪乱（かいぼり）が必要です。水を抜くのですべての生きものを観察でき、外来種の問題にも触れることができます。吹田市立第6小学校では、メダカを駆逐した特定外来生物のカダヤシを佃煮にしてスタッフで食べ、メダカを再導入しました。

冬の活動は、生きものの活動が少ないため、環境教育プログラム中心ですが、野外での自然に触れる活動を模索中です。

これらの活動を通して、一人でも多くの子どもたちの心の中に、生きものに対する興味と共感が芽生えれば、とても素敵なことだと思います。

最後に、この活動に興味を持った方は是非参加してください。この文を読んでいるあなた「あなた」のことですよ。

「都市と自然」425号 2011年8月号より転載